



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 022 Feb 14, 2005

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●日米牛肉貿易交渉について

2月8日(火)に東京で行われた、米国産牛の「月齢判別に関する検討会」において、米国が提案していた肉質や骨格で月齢を推定する方法を「基準として採用することは可能」との評価が下された。

米国の畜産ならびに食肉業界は、この評価を受けて、輸入再開への日本国内の諸体制整備が速やかに進展していくことを期待している。また、輸出が再開された際には、出来るだけ日本側の要望に答えることができるように、これまで以上に安全性を確保した製品づくりへの体制整備を進めている。

日米牛肉貿易は過去四半世紀以上にわたる信頼関係に根差しており、米国食肉輸出連合会は、日米の牛肉と牛製品の取引が再出発するのを期に、より確固としたものとなるよう務めていく。当連合会では、今後もBSE対策への取り組みや貿易再開に向けた体制づくり等について随時情報開示を行っていく。

※2005年2月9日 米国食肉輸出連合会リリースより

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況(1月24日～28日)

●週間と畜頭数：58.9万頭(前年比1.7%減)。

●肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり)：

主要5市場では平均86.40ドル(前週比2.30ドル安)。

枝肉価格は平均139.55ドル(同2.86ドル安)。

●生体牛・牛肉卸売価格

1～2月は年間で最も需要が少ないため、生体牛・牛肉卸売価格が圧迫されている。ネブラスカでは先週、生体牛の現金取引価格(100ポンド当たり)が2～3ドル下落、サザン・プレーンズ(オクラホマ南部～テキサス北部)でも2週間前の92～93ドルから88.89ドルに下がる見込み。一方ボックスビーフ価格は生産がらみで急騰したが、カットアウト価格は先週大幅に下落し、さらに下がるとみられる。今後4月までの週間処理頭数の増加を考えると、この下落傾向で出荷牛のフィードロット内頭数増加の恐れもある。枝肉重量も通常より重い状態が続く模様で、4月後半～5月前半にかけての需要回復への期待が更に高まっている。

※2005年1月31日 Cattle Buyers Weekly

オクラホマシティーにおける去勢牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

体重(ポンド)	1月24日～28日
400～500	126.00～141.50
500～600(子牛)	111.00～123.50
600～700(若齢牛)	116.50～131.25
600～700(子牛)	104.00～113.50
600～700(若齢牛)	105.00～112.75
700～800	101.25～107.00
800～1000	96.00～103.50

※2005年1月28日 Cattle Outlook
(Glenn Grimes & Ron Plain)



米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況(1月24日～28日)

●週間と畜頭数：198.6万頭(前年比4.7%増)。

●肉豚の現金取引価格：

主要市場の価格は前週比
で横這いから1.5ドル高
の間で推移。

主要市場における100ポンド(約45kg)
当たりの最高価格(US\$)

	1月28日
ペオリア	48.50
セントポール	50.00
スーフォールズ	51.00
ミズーリ中央部	51.00

100ポンド(約45kg)当りの豚肉製品価格(1月28日/US\$)

製品名	価格 (前週比増減)	備考
ロイン	119.00 (-1.00)	トリム1/4インチ
ボストン・バット	92.50 (+3.78)	トリム1/4インチ
ハム	76.00 (+4.00)	20～23ポンド物 (9.1～10.4kg)

※2005年1月28日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

業界ニュース

●牛の総頭数、9年ぶりに増大へ

昨年度はカナダ産生体牛輸入禁止が続いたが、2005年1月度は前年同期比で、畜牛が85万頭、肉牛は40万頭増加し、総頭数は9年ぶりに拡大に転じたとアナリストは見ている。これは、パッカーの処理頭数抑制(270万頭減)、メキシコからの肥育牛輸入、数年来続いた干ばつのおさまり等によるものとみられる。

肥育頭数は、1996年1月に15年周期のピークである1億350万頭に達した後、2004年1月に9,490万頭に減少し、同年の子牛生産数は1951年以来最低を記録した。しかし今年1月は小幅ながら60万頭増えて9,550万頭となり、9年ぶりに増加した。今後は拡大段階に入るため、肥育頭数、生産頭数とも伸びると予想される。

※2005年1月26日 FWN Financial News

●USDA、全国家畜個体識別システムのサイト立ち上げ

米国農務省(USDA)の動植物衛生検疫局(APHIS)は、関係者に全国家畜個体識別システム(通称NAIS)関連の情報を提供する、新たなウェブサイトの立ち上げを発表した。家畜保健担当者が、外来・国内発生の疾病に接触した動物や施設を、発生から48時間以内に特定し、迅速に感染動物を追跡して、疾病の拡がりを抑え根絶することを目指す。農務省は3,300万ドル、商品金融公社も1,880万ドルの予算を投入している。

このサイトは、全国ニュースの提供に加え、各州と各動物保健当局の窓口を紹介。州と関係当局は、管轄する動物管理・保管施設に全国単位の識別番号を割り当てることになっている。州からの識別番号割り当ては、2005年中頃までに実施予定。また今後は、特定の動物種や業界団体を対象にした各種リソースの追加も考えている。既に業界関係者と政府側メンバーで構成される、畜牛、野牛、羊、豚、家禽、馬、ラマアルパカ、鹿、畜産・加工業対象のNAIS作業グループが設立されている。

詳しくは <http://www.usda.gov/nais>

※2005年1月25日 米国農務省ニュースリリース

●米国消費者、外食も高い健康志向

全米レストラン協会は2005年度の外食傾向として、消費者の栄養・健康への関心がさらに高まり、メニューではサラダが全業態で伸びると予測している。現在でもファーストフードで78%、カジュアルダイニングで52%、ファミリーレストランで45%、高級レストランでは39%の経営者が「サラダの注文が増加」と回答している。

サラダ、ミネラルウォーター、野菜・果物の副菜、鶏肉料理のメニューが人気で、レストラン側も健康なライフスタイル啓蒙のため、パンフレットや万歩計、中にはスポーツジムの会員資格まで来店客に



業界ニュース

提供して、外食も「ヘルシーUS」のソリューションの一つであることをアピールしている。またフルサービス、ファーストフードとも、9割の経営者が、来店客の希望に応じて、例えばドレッシングをノンオイルにするなど、メニューをカスタマイズすると述べている。さらにフルサービスレストランでは13才以下の子供同伴の来店が増加し、ファミリーレストランとカジュアルダイニングの4割、高級レストランの3割が、2年前に比べキッズ向けヘルシーメニューを増やしたと報告している。

※2005年1月21日全米レストラン協会リリース

●MEFホームページでアメリカン・ビーフの安全性ビデオを配信

米国食肉輸出連合会 (MEF)、2月9日 (肉の日) から、アメリカンビーフの安全性を知っていただくために「信頼のアメリカン・ビーフ」と題したPRビデオを配信します。

このビデオでは、アメリカでどのようなBSE対策が行われているのかを「牧場とフィード・ロットについて」「BSEの研究とその対策について」「食肉加工工場と誓約書について」の3編に分けてご紹介しています。是非お楽しみ下さい。

URL:<http://www.americanmeat.jp/prmovie/>